

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1172502211		
法人名	社会福祉法人 桑の実会		
事業所名	康寿園グループホーム輝		
所在地	所沢市東狭山ヶ丘6-2796-1		
自己評価作成日	平成22年2月27日	評価結果市町村受理日	平成22年7月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kohyo-saitama.net/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	平成22年3月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、「桑の実会」が運営母体となっているグループホームである。「その人らしく輝いて欲しい」という理念のもと、職員は利用者の伴奏者となるように活き活きと笑顔で介護に励んでいる。ホームは住宅地の中にあり、小中学校に隣接している。ホームの中には廊下を含め共有スペースなど広くゆとりがある。地域交流室を自治会やボランティア会議などの地域活動に開放している。習字や絵手紙など多様なボランティアによる来訪があり、利用者の楽しみと気晴らしにつながっている。職員は、ホームの開設前から通学路に立ち小学生の登下校の見守りを行うなど、地域住民との関係ができていく。また、運営推進会議には、小学校長、行政、自治会長や地域住民の参加により活発な審議が行われており、災害、防災への地域住民による支援隊が結成されるなど、協力体制ができており、地域に密着したグループホームである。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・地域とのかかわりが深く、交流が活発に行われている。開設前から続けられている小学生の登校時の見守りから始まった児童や先生との交流、地域の自治会5団体との相互協力関係、そのほか各種ボランティア、スポーツ少年団、趣味サークルなど多くの個人や団体とのかかわりが持たれ、利用者との交流にも活かされている。
 ・多様な職員のかとグループ資産を有効活用されている。美術卒職員のはり絵やぬりえの下絵書き、美容師のキャリアを持つ職員による理・美容、優れたカラーセンスとアイデア溢れるアルバムづくりなど利用者の楽しみと張りのある生活に職員の能力が活かされている。また、グループ内関連事業所の大型バスを借用し、利用者全員でお花見や遠出のバスハイクなどにも有効活用されている。
 ・職員の間関係が良く、優しさ溢れた輝きある笑顔で利用者との関わりが持たれ、良いケアとサービス提供に活かされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月のユニット会議や職員合同会議で、事例をもとに理念の実践に向けた取り組みを行っている。また、新入職員には、入職時に管理者が説明指導を行い、理念の共有に取り組んでいる。	事業所理念「その人らしく、輝いてほしい」を管理者や職員全員が共有され、利用者一人ひとりの輝いた笑顔がたくさん見られるよう取り組まれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流は積極的に行われている。地域の行事に参加するほか、ホームの行事(花見、夏祭り、クリスマス会)などへの招待には多くの住民の参加がある。また、ホームの地域交流室を地域に開放することで情報交換がなされ、ホーム開設前から小学生の登下校の見守りを行うなど、地域の人々との交流に努めている。	地域自治会5団体から支援や協力を得られているほか、小学校や中学校、そのほか各種ボランティア、スポーツ少年団、趣味サークルなど多くの個人や団体との関わりが持たれ、利用者との交流にも活かされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日々近所を散歩するたびに、地域の人が声をかけて下さるなど、認知症への理解を深めてくれていると思う。また、自治会の方々がグループホームの存在を多方面で紹介するなど、双方向で認知症の人を支えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年数回開催されており、メンバーは学校、地域、民生委員、行政、法人代表から構成されている。会議では、事業報告や行事予定の説明の他、参加者との情報交流が活発に行われ、災害時の協力体制についても話合われている。全体会議を開き評価の意義を話し合い、改善点をユニットごとに取り組むようにしている。	定期的を実施され、事業所の報告だけに終わらず、参加者から意見や提案がなされて有効的な会議運営をされている。その内容も防災、地域の講演会情報、認知症の方や家族へのサポートに関わることや医療情報など幅広いもので、サービス向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ぐるみの防災訓練等、市に来ていただくよう働きかけている。市の高齢者支援課の担当者と密に連絡を取っている。研修会、親睦会を通して良好な協力関係が築かれている。	市主催の事業者研修会や申請手続き時及び報告、相談などの機会にコミュニケーションを図り、良好な協力関係を築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを原則としているが、緊急やむをえない場合、家族の了解をとっている(ベット柵等)。	「身体拘束ゼロへの手引き」をもとに、身体拘束の内容とその弊害について研修され、施錠もなく拘束しないケアに取り組まれている。実践として「見守り」を重視されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	何か虐待にあたるのかを常に指導し、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援	管理者は、学習をしてきたが、職員が学ぶところまで到達していない。必要な人には支援をする用意はある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書はすべて音読み、一つ一つの項目に説明を行い、理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時は、できる限り声をかけ思いを聞くようにしている。又、家族の代表の方との意見交換も行っている。家族会を年2回行なっている。利用者の意見、不満、苦情は職員がユニット長、管理者に届け、ケアプランや運営に反映させている。新たに苦情受付表及びファイルを作り、苦情にとどまらず意見等も記録することにした。内容は、第三者委員会にて報告している。	家族の来所時や家族会などで意見や要望を聴きとるよう取り組まれている。そこでの意見や要望は記録し、速やかに管理者に報告がされることで、風通しのよい連携の執れた取り組みが行われている。家族の提案から利用者と家族と一緒にハスハイクを行なうなど具体化されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時意見を聞き入れ迅速に対応している。、年1回個人面接をし、職員の意見を聞くと共にユニット会議からも意見を聞き、反映させている。	ユニット会議や個人面接時などで聴きとられるほか、業務終了後の帰宅前の会話の中からも聴きとるよう取り組まれている。利用者の楽しみのひとつである外出先の選定や会話を増やす個別対策などの提案が事業所運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常勤、準常勤は功労を認め、役職、給与に反映している。非常勤の場合は定期昇給にて反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は内部、外部の研修を受ける機会がある。救命研修には全職員が参加し、スキルアップ、指導者研修へと進めている。また、研修受講者は研修報告書を提出しており、報告書を回覧して職員間で共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の理事をするようになって、ネットワークができています。4月、11月、2回勉強会を行なった。昨年は、当グループホームに長谷川和夫先生を迎えての勉強会を行なった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との面談を重視し、話をよく聞くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との話し合いも重視し、ホームとしての対応など事前に話し合いをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況を見て、入居のあり方を家族、本人、担当ケアマネとよく話し合い、より本人にとって良い方向を工夫している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	特に、調理の場面で学ぶことが多く、畑で収穫した時や散歩中に会話の中から情報を得ることが多々あり取り入れている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事などに参加していただき、関係を築いている。自分の気持ちを上手く伝えることのできない入居者は、特に家族の意見や考えを聞くようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個人的な外出を行っている。	遠い自宅への帰郷、馴染みの店での食事や買い物、知人や親せきの来所のほか、手紙や電話取り次ぎなど関係継続への支援が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話の流れが上手くいくよう、必要に応じて職員が輪の中へ入るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移った場合等、時々面会に行くようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	どうしたいのかを聞きとることに力を入れている。希望全てをとり入れることは困難だが、可能な限り叶えたいと考えている。	夜勤帯に添い寝やおしゃべりなどされ、利用者の気持ちに寄り添うよう取り組まれている。会話が困難な利用者でも、心を開いてもらえるよう言葉がけを続け、表情や仕草で汲みとるほか、家族とも相談しながら取り組まれている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントからの情報のみでなく、日常の会話や家族からの新たな情報を会話等で共有するようにしている。家族に生活史を作成してもらっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	表情や口調を観察しながら日々の活動を促したり、休息を入れたりしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランには、家族の方が書かれた生活史や本人への聞き取り調査を重視し、作成している。御家族の意見は、家族会や訪問時に聞くようにしている。	利用者や家族には日頃のかかわりの中で、思いや意見を聴き、反映させている。職員全員で取り組み、現状に即した介護計画を作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を細かく記録し、ケアプランの見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の手術等では、長期入院が困難な場合は、臨機応変に受け入れ体制をつくっている。入居者の状況に応じて、柔軟な対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアには常時来てもらっている。年2回の避難訓練には、消防署、民生委員、地域住民に協力してもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を大事にし、医療支援を行っている。例えば、眼科への送迎や必要時の受診付き添いを行っている。	入居時に利用者及び家族等の希望を大切に、医療機関の選択をしていただいている。必要なかかりつけ医の受診支援も行なわれ、適切な医療が受けられるよう取り組まれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームゲストルーム内に、同じ法人クリニックの医師が常駐しておられるおかげで、日常的にも緊急時にも診察、治療、薬の処方を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	重度化や終末期に向けては、家族面談を行い、話し合っている。入院時には2～3日に1回は入居者を連れて顔を見に行くようにしたり、必要時は毎日、昼食介助に行く事もある。病院関係者とはこまめに連絡をとり、早期退院を実現している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアは、今の段階では難しい。できること、できないことの線引きがまだ曖昧である。ほとんどの家族、本人ともにグループホームでの暮らしを望むため、家族と話し合いながら良い方向を見つけていきたい。現在はギリギリまでホームで生活できるよう支援している。	過去、重度化された方の2事例を経験されているが、一部職員の入れ替わりもあり、現時点での体制は充分とは言えないものがある。しかし、組織的対応への取り組みに向け、準備を進められている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回の防災訓練時に、全員救命講習を受け、AEDの講習も行った。緊急時のマニュアル作成。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域支援隊を中心に、災害時の助け合いのあり方を協議している。	年2回消防署や自治会主体の支援隊などの協力を得て、防災避難訓練を実施されている。また、運営推進会議でも防災について検討され、地域との協力体制は整備されている。	火災対応マニュアルは整備され、職員の役割分担や連絡体制も文書化されているが、地震や風水害の対応マニュアル及び夜間(職員1名体制)など発生時間別のマニュアルの整備とその訓練の実施に期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	性格、人格を尊重し、9人それぞれオリジナルなケアを行っている。居室に入る時はノックする等、プライバシーには気をつけている。	年長者として敬意を払った対応と個人情報の責任ある取り扱い、排泄や入浴時の羞恥心に対する配慮などきめ細かな対応がとられている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	説明の仕方を工夫し、理解できるよう話しかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩、活動等はその人のペースに合わせた事を行えているが、入浴時間は、浴室の作りや安全面を考慮して午後になっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容は現在、美容師の資格を持つ職員による美容に満足している。声がかけてお化粧品も楽しんでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌い等を考慮している。準備、片付けも協力しながら行えている。	利用者の力に合わせ、料理の下準備や下膳、後片付けを職員と共に行っている。また、菜園で育てた大葉や食用菊なども食材として調理されるほか、おはぎやほうとう、ホットケーキなども手づくりし楽しまれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の基本的な食事量、水分量を把握している。体調変化が見られる時はチェック体制を敷き、数字を記録しながら体調回復に努めている。特に水分拒否ぎみの入居者については、時系列で水分摂取量を記録して、1日1,000ccを達成できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	常時声かけをすると共に、確認をしている。本人ができない場合は介助にて行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	会議等で話し合い、誘導回数を増やしたりしばらく様子を見てから再検討する等、工夫している。	職員全員で利用者ごとの習慣やパターンを話し合い、対応策を検討されている。夜勤帯に2回のトイレ誘導をするなど、トイレでの排泄や自立にむけた支援がとられている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘だけでなく、浮腫み改善の為に運動や足浴等を取り入れている。家族と医師の許可を得て、下剤の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴拒否の場合でも、再度声かけを行ったり、しばらく様子を見てから再検討する等、工夫している。	1Fに大浴場、2Fに小浴場があり、利用者の希望に沿い、一人でゆっくりされる方や数名と一緒に入浴される方もいる。また、入浴を拒否される方には、時間を替えるなど、あきらめず工夫した取り組みを行ない、入浴していただけるよう支援されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠前の散歩運動、フローア又は居室でTVを観る等、自由に過ごして入眠している。昼夜逆転の場合でも、夜間できるだけ入眠を促す工夫をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ミスへの危険性を充分認識している。2重3重の対策により、重大なミスはなくなった。薬の変更や逆に食事内に変更(コーヒーを飲む、グレープフルーツを食べる)時にも、注意事項を見直して慎重に行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	以前行ったことや挑戦したことを聞き出し、生活が単調にならないよう工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望を聞き外出している。近所への買い物もしている。	日課の散歩のほか、利用者の希望に沿い買い物や外食に出かけられている。また、グループ内関連事業所所有の大型バスを借用して、バスハイクで狭山湖や青梅など観光地にも出かけたり、近くの公園で桜やバラなど季節の花を楽しまれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理ができる入居者は自己管理をし、できない入居者は事務所で預っていることを伝え、必要時伝えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたい時には随時かけている。手紙を書く事が好きな人には、切手、便箋の購入、投函も援助している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に花や植物、又は季節の行事(七夕、ひななごり、お月見、クリスマス、お正月等)を飾り、地域の人が親しみを持ってもらえるようにしている。居室や食堂には写真や花を飾る等、明るい空間作りを目指し、入居者と一緒にできる様にしている。一日最低一回の窓の開放、居室換気扇の24時間運転により、十分な換気が行われている。エアコンの調節は日中は日勤、夜間は夜勤者が責任を持って行っている。エアコンのフィルターもこまめに掃除をしている。畑作りや玄関の植木を楽しめる様にしている。	各フロアごとに共有空間の整備担当職員がおり、利用者が季節を感じていただけるよう、ひなまつりやお正月のはり絵などの飾付けに利用者と共に取り組まれている。また、明るく広々としたリビングには、テーブルのほか、2ヶ所にソファが置かれ、テレビを観たり、一人で静かにゆっくりと過ごせるよう工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りで居る時などむやみに声をかけず見守りをするようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	TV、ダンス、冷蔵庫等、これまで使用していた物を置くことによって、他にも好みの物を配置できるようにしている。	馴染みのタンスや机、椅子、テレビなどが持ち込まれるほか、お気に入りの書や絵も飾られ、本人が居心地良く過ごされるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差をなくし、スロープを作っている。又、必要な所に手すりを設置している。トイレのマーク、夜間の照明の工夫、家具の配置など安全と自立を支援している。		

(別紙4(2))

事業所名 康寿園グループホーム輝

目標達成計画

作成日: 平成 22年 5月 15日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	地域の方々が自主的に結成した「輝支援隊」を中心に火災時の避難訓練を年2回実施しており、成果は上がっているが、地震や風水害の対応マニュアルに不備がある。	様々な災害に対応できるマニュアルを早急に整備する。	基本的には火災時の対応マニュアルに準じた体制を取るが地震、水害被害は地域の方々も同様の被害があるため輝支援隊以外にも支援を求める形を市の災害対策を参考に作り上げる。	6ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。